

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>平成17</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 修士課程においても「各専攻共通科目」として教養教育等が充実しており、専門に目が向きがちな学生が多い工学系単科大学では有益な配置であり、「自然環境、人類の文化的・経済的活動など、技術科学をとりまく諸事情を理解し、広い視野を持って人類の幸福と持続的繁栄に技術科学を応用する意義を正しく認識した技術者を育成すること。」という大学の目的に合致している。(長岡) ◎ 大学院進学者に課される4年次後半の「実務訓練」は、学部・大学院一貫教育の特色を具現化するものである。卒業時のアンケートにおいて学生からの評価が高く、大学の教育目的である「実践的・創造的な指導的技術者の養成」という点においても有効である。(長岡) ○ 社会人キャリアアップコース「機械安全工学」では、専攻科目の多くを集中講義で行い、共通科目や一部の専攻科目をe-learningで行うなど、受講生が社会人であることを配慮した学習指導法の工夫がなされている。(長岡) ○ 必要に応じて遠隔教育などを用いることで、県内外の多くの大学等と単位互換協定を結び、連携が進んでいる。(長岡) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院のシラバスについては、科目ごとの記載内容の差が大きく、各週の授業内容が具体的に記載されていないものがあることから、今後の対応が望まれる。(長岡)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 1年次からの入学者と、高等専門学校などで技術教育を受けた3年次編入学生とが共存することに配慮した基礎と専門を繰り返す「らせん型」教育カリキュラムが体系的に組まれている。(豊橋) ○ 学部4年次に2ヶ月間という長期にわたるインターンシップを実践している。(豊橋) ○ 授業内容、達成目標から判断し、技術者倫理(必修)の内容は適切であり、充実している。(豊橋) ○ 技術者、研究者として能力開発のため、フィールド型授業が充実している。(豊橋) ○ 柔軟で人間的な発想をすることのできる人材の育成を目指し、修士課程において、人文・社会の分野で6単位の履修を義務づけているのは、当該大学独自の特色ある教育課程である。(豊橋) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 複雑化する情報社会を支える人材育成を教育の目的として掲げて、複雑系科学と情報科学の教育を認知科学、コミュニケーション、情報デザインと融合させながら実施する先駆的な教育を行っている。(はこだて未来) ◎ 学士課程3年次に配当されるプロジェクト学習は、特色ある取組であり、在学生、卒業生の満足度も高い。(はこだて未来) ○ 一つの演習科目に複数の教員が連携しながら携わるチームティーチングは優れた教育方法である。(はこだて未来) ◎ 学士課程、大学院課程ともに単位の実質化のために、きめ細かく課題を課すことにより授業時間外の学習を促している。(はこだて未来) ○ 大学院課程における研究指導が恵まれた研究環境の下で複数教員によってきめ細かく行われており、学生の満足度も高い。(はこだて未来) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 博士前期課程、博士後期課程ともに、複数指導教員体制が有効に機能している。(大分県立看護) 		
<p>平成18</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 21世紀教育(教養教育)の言語コミュニケーション実習と自然系基礎の授業では、習熟度別のクラス編成が実施されている。また、編入学生への配慮として、個別の科目ごとに補習(医学部)等が実施されている。(弘前) ○ 農学生命科学研究科では、各専攻に高度専門技術者志向コースと大学院博士課程進学コースを設け、それぞれ目的に応じて、実践教育と課題研究が設定されている。(弘前) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学士課程のシラバスは、全学的な統一基準に基づき作成されているが、教員ごとに記載内容の充実度に差が見られる。(弘前)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教育委員会の下、全学体制で、全学統一形式のシラバスの作成、学生一人一人のGPA等を記載した資料の作成ときめの細かい指導を実践している。(山形) ○ 医学系研究科において「基本的研究ストラテジー修得コース」など特色ある科目を設け、教育目的を達成するための工夫を行っている。(山形) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 医学研究科において統一したシラバスが作成されていない。(秋田)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 農学部では、農場・演習林等を活用した各種フィールドワーク型授業、工学部では、ものづくりの実験・実習が展開されている。(東京農工) ○ 「派遣型行動人材育成プログラム」では、博士後期課程の学生を企業等に派遣し、企業の研究者等と共同で研究指導が行われている。また、派遣された学生は、「特別研究計画」の単位修得が可能となっている。(東京農工) ◎ 技術経営研究科では、3~4回分の授業をまとめた「モジュール」と呼ばれる単位ごとに達成度を確認しながら、授業を進める方法がとられている。(東京農工) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学校教育教員養成課程のカリキュラムに、附属学校を場とする「学校教育・観察参加研究」のほかに、公立学校との連携による「教育課題研究実地演習実習」、「学校インターンシップ研修」、「教職キャリア実践論」などの科目が用意され、教員養成系大学としての特色ある取組が見られる。(京都教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年次に高大連携を目的とした「自然科学入門」など、導入教育が充実している。(徳島) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学部における卒業制作、卒業演奏と卒業論文、大学院修士課程における修士作品、修士演奏と修士論文、及び大学院後期博士課程における博士論文を作成するために、学生・大学院生一人一人に対するきめ細かい指導が実施されている。(沖縄県立芸術) ○ 大学の特色の一つである音楽学部琉球芸能専攻では、琉球芸能に対する学生の理解を一層深めるため、専門実技以外に、西洋音楽理論などの幅広い語科目を配置している。(沖縄県立芸術) 		

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>◎ 海外の最新の研究論文をレビュー、討論して学生の授業に生かすことを狙いとしたジャーナル『シンセサイザー』によって最新の学術情報の取り入れに努力し、授業内容の刷新を図っている。(沖縄県立看護)</p>		<p>◎ 学士課程の成績評価に対する正確性を担保する措置が十分には講じられていない。(沖縄県立看護)</p>
平成19	<p>◎ 「インター・サイエンス」などの副専門教育課程教養基礎科目共通科目は所属学科以外の知識を身に付けさせる特色ある科目である。(室蘭工)</p> <p>○ 医学科ではモデル・コア・カリキュラムに対応するとともに、統合カリキュラムを編成し、少人数教育(チュートリアル等)を積極的に導入している。(旭川医)</p> <p>◎ 臨床実習をコア化するとともに、僻地医療実習及び選択実習等を積極的に導入している。(旭川医)</p> <p>◎ 博士課程では、研究者コースと臨床研究者コースを新たに区分するとともに、共通科目(「基礎医学特論」「先端医学特論」「医学論文特論」)を履修させることにより、大学院教育の実質化とコースワークの充実・強化に努めている。(旭川医)</p>		<p>◎ 大学院修士課程のシラバスの充実が求められる。(旭川医)</p>
	<p>○ 新設の専門職大学院という教育機構を、意欲を持って、高度に運用していることを高く評価したい。(東北)</p> <p>◎ 教育活動等の改革に対する積極的な取組が、文部科学省の各種大学教育改革プログラムにおいて、特色GP4件、医療人GP1件、大学教育の国際化推進プログラム3件、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ4件、法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム2件、法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム2件の採択につながっている。また、平成19年度においても採択された取組がある。(東北)</p>		
	<p>○ 演習等の少人数教育、教養教育から専門教育に至る体系的履修、文理融合型の教育などに配慮した教育課程を編成し、CAP制度やGPA制度などにより授業履修の実効性を高めている。(福島)</p> <p>◎ 上級生が下級生に授業履修のアドバイスをする制度が有効に機能して、授業履修が円滑に進められている。(福島)</p> <p>○ 大学院において、高度専門職業人の育成を目的として、地元自治体や地元企業と連携した実践的な教育を行っている。(福島)</p> <p>◎ 学士課程には夜間主コースを設け、大学院課程では昼夜開講制をとり、附属図書館を夜間や休日にも開館するなど、社会人が就学しやすい学習環境を提供している。(福島)</p>		
	<p>◎ 普遍教育においては、基礎英語から上級英語まで系統的に配置された英語科目を中核に、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語・イタリア語・スペイン語が初修外国語科目として配置されている。また、アラビア語・ギリシア語・ラテン語なども、教養展開科目として、それぞれ初級が開講されている。(千葉)</p> <p>◎ 将来の独創的な研究を担う個性的な人材を育成するため、早期から大学教育が受けられる機会を提供する「先進科学プログラム」(飛び入学)が設置され、目的に応じた高い実績を上げている。(千葉)</p> <p>◎ コンピュータ支援の言語学習システムの教材開発で国内的に主導的な役割を果たすなど、学習指導法の工夫が積極的に進められている。(千葉)</p>		
	<p>◎ 言語教育と演習指導を中心に少人数教育が基本とされ、教育目的に応じて臨地型授業や実習、インターンシップなどきめ細かく行われている。(東京外語)</p> <p>◎ 独自に開発したe-learningシステムを活用して、自主学習と基礎学力不足への対応を行っている。(東京外語)</p>		
	<p>◎ 四大学連合(東京工業大学・一橋大学・東京医科歯科大学・東京外国語大学)複合領域コースの設置による「学際的・複合的領域の教育」が実施されている。(東京工大)</p> <p>○ 大学院総合科目の開講や副専門制度による「多面的なもののとらえ方、異なる分野における論理と考え方、科学と工学の人や社会との関連性などの体験的かつ総合的な教育」が実践されている。(東京工大)</p> <p>○ 研究科又は専攻を越えて、横断的かつ機動的な教育研究拠点を編成し、プロジェクト的に大学院課程の先端的教育及び実務的人材養成を行うことを目的に10件の特別教育研究コースを設置している。(東京工大)</p> <p>◎ インターネットを利用した授業形態として、東京工業大学オープンコースウェア(OCW)をプラットフォームとした251科目の講義ノート公開による「東京工業大学の理工系教育の世界共有財産化」が実施されている。(東京工大)</p>		

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>○ 社会科学の総合大学としての特性を活かすため、卒業に必要な専門教育と共通教育の単位数及び共通教育の履修要件の枠組を全学で統一し、学部の枠を超えた自由で主体的な学習を可能としている。(一橋)</p> <p>○ 共通教育の5つの科目群はそれぞれ多彩な内容を持ち、特に総合科目は、基礎教養と総合性を体得させるために全学的な協力の下に開設され、社会科学、人文・思想、学際テーマ、寄附講義、教養ゼミの5科目群から構成されている。(一橋)</p> <p>○ 教員の専門知識や能力を直接的・効果的に授業に反映し、教育改善に向けた取組を積極的かつ恒常的に展開するため、学士課程・大学院(修士・博士後期)課程を対象とし、特色を備え、かつ効果的な実施を目指す教育プロジェクトを募集・選定している。平成19年度には8プロジェクトの申請があり、そのうち4プロジェクトが採択されている。(一橋)</p> <p>○ 他学部科目の履修、他大学科目の履修、インターンシップの活用、習熟度に応じた教育、修士課程との連動による5年一貫教育など、学生の多様なニーズ、社会からの要請に対応した教育課程が編成されている。(一橋)</p> <p>◎ 3つの専門職学位課程(「国際企業戦略研究科」、「法学研究科法務専攻(法科大学院)」)、「国際・公共政策教育部」は、極めて個性的な教育目的を掲げて、特色ある教育を実践している。(一橋)</p> <p>◎ 学士課程、大学院課程及び専門職学位課程を通じてWebシラバスが共通フォーマットの下で整備されているとともに、「Web クラス」という各授業単位のきめ細かい案内も普及しつつあり、専門職学位課程ではイントラネットも有効に活用されている。(一橋)</p>		<p>○ 平成19年度から、学士課程については、成績評価への学生の異議申立てを厳格に実施するため成績説明請求制度が導入された。しかしながら、答案やレポートの返却が教員個人の意向に委ねられているなど、成績評価そのもののあり方や関連する実務的問題については、大学としてのきめ細かい点検や工夫が不足している。(一橋)</p>
<p>○ J A B E Eプログラムの認定に積極的に取り組み、3学部にわたり10の教育プログラムが認定されている。(新潟)</p> <p>◎ 教養教育と専門教育とを、連続性・段階性・体系性を有する一貫した全学的教育体制に組み換え、「分野・水準表示法」によって各授業科目の内容とレベルを標準化しており、学生が自分の能力、意欲に応じて諸分野の基礎から高度な内容まで履修できる環境を整えている。(新潟)</p> <p>◎ 学生の多様なニーズに対応できる副専攻制度により、所属学部の学位とは別に、特定分野の学習成果を認定している。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラムにおいて、平成17年度に「中越地震に学ぶ赤ひげチーム医療人の育成」が対応した医療人教育支援プログラムに採択され、「地域支援テレビ会議システム」による地域医療病院医師との会話形式の講義やワークショップの開催、中越地震被災地での仮設住宅や仮設診療所の見学、チームでのへき地を含む地域における訪問診療や訪問看護等の地域医療体験実習等を実施している。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成18年度に「企業連携に基づく実践的工学キャリア教育－職業意識の自己形成に向けた学生・技術者・教員の協働－」が採択され、キャリア教育がより実践的なものとなるなど教育改革に貢献している。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成15年度に「ものづくりを支える工学力教育の拠点形成－創造性豊かな技術者を志す学生の連携による教育プログラム－」(共同プロジェクト)、平成18年度に「学生主体の三位一体新歯学教育課程－社会に貢献する包括的歯科医師の育成を目指して－」が採択され、技術者との対話を可能とするネットワークシステムを構築及び歯学部において学生主体型教育への転換を行っている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブにおいて、平成17年度に「留学生大学院教育の実質化による国際貢献」が採択され、留学生が1年間で基礎教育を受け、次年度帰国した後、e-learningによる授業で単位を修得し、両大学の指導により学位論文が完成できるよう環境整備を図っている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省法科大学院等専門職大学院形成支援プログラムにおいて、平成16年度に「裁判と法実務の国際的体験研修プログラム」(共同プロジェクト)及び「法学未修者向け導入教育プログラム開発」、平成17年度に「地域の国際化に対応する教育プログラム開発」(共同プロジェクト)が採択され、法科大学院生が諸外国の裁判制度と法実務の実態を海外研修によって把握し、それを通じて「国際的」な実務家法曹及び研究者法曹を養成する取組、法学未修者に「法的な理解と思考」を身に付けさせ、民法の体系的理解を容易にするための導入教育プログラムの開発及び地域経済の構造的特質により異なる具体的問題に対応し得る法的見識と国際的視野を涵養する法曹教育のあり方の検討、教材の研究・開発を行っている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省特色G Pにおいて、平成19年度に「総合大学における外国語教育の新しいモデル－初修外国語カリキュラムの多様化と学士課程一貫教育システムの構築－」が採択されている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムにおいて、平成19年度に「ダブルホーム制による、いきいき学生支援－地域協働による、学生の自律を目指す、予防的環境の構築－」が採択されている。(新潟)</p> <p>◎ 文部科学省専門職大学院等教育推進プログラムにおいて、平成19年度に「実務技能教育指導要綱作成プロジェクト」(共同プロジェクト)が採択されている。(新潟)</p> <p>※基準5_教育内容方法(G P, C O E)シートと重複</p>		
<p>○ 大学院の授業として、大学や附属学校教員が個人あるいは共同で行うプロジェクト研究の成果を教育の場へ還元する目的で「研究プロジェクト・セミナー」が開設されている。(上越教育)</p> <p>◎ 初等教育実習で実習期間を夏休みをはさんだ前期(1週間)と後期(3週間)に分割して行う取組が、平成17年度に「教職キャリア教育による実践的指導力の育成－分離方式の初等教育実習を中核として－」として文部科学省特色G Pに採択され、専門的力量と教育実践に精通した有能な教師を育てるという大学の理念を具現化するための取組が実施されている。(上越教育)</p> <p>※基準5_教育内容方法(G P, C O E)シートと重複</p>		<p>○ 学士課程では、卒業生の7割以上が複数の教育職員免許状を取得しており、その平均修得単位数は160を超えている。(上越教育)</p>

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ◎ ポータルサイト「アカンサスポータル」を開設し、インターネットを利用して大学からの事務連絡や授業で使用した資料の配付、授業で出された課題の提出などを行うe-learningを本格化している。(金沢) ◎ 平成18年度から、博士(後期)課程の学生ごとに「院生別カルテ」を電子ファイルで作成し、研究指導に活用している。(金沢) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院のシラバスの記述が十分とはいえない教員が散見される。(金沢)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学部・修士一貫教育の「クリーンエネルギー特別教育プログラム」および「ワイン科学特別教育プログラム」を実施し、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会の要請に応える教育課程の編成に配慮している。(山梨) ◎ 工学部において、クラス担任による、学力不足の学生に対する修学指導が行きとどいていて、留年率が下がっている。丁寧な指導の下での退学勧告制や転学科も導入されている。(山梨) ◎ 大学院医学工学総合教育部修士課程において、文部科学省派遣型高度人材育成協同プランによる「教育・研究レゾナンス連携」を活用した長期インターンシップを実施しており、実践的能力を涵養している。(山梨) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 国内初の大学専用チャンネル「信州大学テレビ」では、番組の企画・制作を通じて学生の創造力・コミュニケーション力等のあらゆる能力の開発を目指しており、平成19年度から教養科目の「知の継承と発展」の科目として「放送番組制作ゼミ」を開講している。(信州) ◎ 教育学部・教育学研究科における『「臨床の知」の実現-蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成』が、平成17年度文部科学省教員養成GPIに採択され、教育理念である「臨床の知」に基づく学部カリキュラムを構築し、実践的指導力のある教員の養成を図っている。(信州) ○ インターネット大学及びインターネット大学院を設置し、社会人が働きながら学ぶことのできる環境を提供している。(信州) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 医学科学部教育におけるPBLチュートリアル教育を積極的に実施し、自学自習の育成を図っている。(浜松医) ◎ 医学科3年次における研究体験学習(基礎配属)が有効に機能している。(浜松医) ◎ 大学院博士課程では、コースワークを充実し、研究者養成コースと研究能力を備えた臨床医養成コースを体系的に編成して大学院教育の実質化を推進している。(浜松医) ◎ 修士課程と博士課程に長期履修制度を導入し、社会人が履修しやすくなっている。(浜松医) ◎ 入学から卒業まで及び大学院教育において一貫した倫理教育を行っている。(浜松医) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学部と大学院との連携による6年一貫教員養成コースを取り入れている。(愛知教育) ○ 長期履修制度により、大学院課程の学生に小学校教諭1種免許状取得に必要な学部の授業の履修を認める「小学校教員免許取得コース」を設置している。(愛知教育) ◎ 平成17年度の文部科学省現代GPIに「外国人児童生徒のための教材開発と学習支援プログラム」が採択され、その取組を活かし、総合演習に外国人児童生徒教育を目的とした授業が開発されている。(愛知教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全学的にe-learningシステム「Moodle」やPBL(問題解決型学習)教育を展開し、自主的・能動的な学習を支援する体制が整備されている。(三重) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学における教育理念である自学自習を促す努力がなされており、語学教育におけるCALLシステムによる学生の能動的な取組が教育効果をあげている。(京都) ○ 新入生向け少人数セミナーとして各学部・研究科・研究所等の教員がフェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係の中で、フィールド実習など多様な形態の授業を行う「ポケット・ゼミ」を1年次の学生を対象に開講している。(京都) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学校安全教育の推進を図るため、共通基礎科目に「学校危機と心のケア」を開講し、さらに、教員養成課程には、全学生を対象とした必修科目「学校安全」を開設することとしている。(平成19年度入学生から実施し、2年次で必修)(大阪教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院(修士課程)では、神戸市中央区に神戸サテライトを設置して、教職等の仕事に従事している学生が夜間でも履修ができるように配慮している。(兵庫教育) ○ 遠隔地の学生に対して、RCSシステムを用いて論文指導や講義を行っている。(兵庫教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成17年度から交付の特別教育研究経費「女性のためのキャリア教育プログラム開発推進事業」の一環として、女子学生4年一貫キャリア教育を実施している。(奈良女子) <p>※基準5_教育内容及び方法(GPI, COE)シートと重複</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教員の授業科目や研究成果のシーズ等を一冊にまとめた『和歌山大学教員プロフィール』が作成されており、学生のみならず、地域社会に対して教員の研究成果を示している。(和歌山) ○ 教養科目として開設されている「自主演習」は、学生の自主性の涵養及び専門教育での課題探求能力・問題解決能力の育成に有効である。(和歌山) ○ 経済学部では、「エキスパートコース制度」として、より優秀な人材を育成するため、飛び級を利用した学部3年と修士課程2年による5年一貫教育が実施されており、毎年2〜3人程度、この制度による大学院進学が行われている。(和歌山) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ GPA制度を採用し、優秀学生育成奨学金受給者の選考などに積極的に活用している。(鳥取) 		

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ◎ マッチングプログラムコースは、学生個人の目標・目的に応じた科目履修を基本とし、学部・学科横断型の科目履修を可能としている。(岡山) ◎ シラバスに「研究活動との関連」の項目を設け、授業を担当する教員の研究活動との関連を説明している。(岡山) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「防災インストラクター」認定科目を創設して、充実した防災教育を実施している。(高知) ◎ 人文学部のSOULSなどオンライン学習システムを活用して、学生と教員、学生相互のコミュニケーションを活性化することで、授業時間外での学習を効果的にし、単位の実質化を図っている。(高知) ◎ 農学部においては、高知県の特色である豊かな自然環境と自然災害も多いという地域に関連するフィールド型授業が多く開設されている。(高知) ◎ 総合情報センター(図書館)及び総合研究棟自学自習室が、夜間及び土曜・日曜にも利用可能となっていること、各研究科において、学生が院生共同研究室内あるいは所属研究室内に個人用スペースをもっていることなど、学内で自主的な学習を行いやすい環境が整えられている。(高知) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学院では大学院共通教育により、社会に対する広い視野を持った大学院生の資質の向上を目指している。(九州) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 独自の教育の質保証と水準の更なる向上のため、コースワークを軸とした組織的教育を重視する大学院教育課程編成を一層推進してゆくことが期待される。(九州) 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力が不足している入学生に対し、入学前後に補充授業等を行い、基礎学力向上の教育指導を行っている。(宮崎) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学院において全研究科共通科目として「いのちを学ぶ」科目群と、「鹿児島大学VBL(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)教育プログラム」を開設していることは特色ある取組である。(鹿児島) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 博士後期課程では、平成19年度から日本スポーツ振興センターに置かれている国立スポーツ科学センターと連携大学院制度をスタートさせ、インターネットを利用したテレビ会議システムで授業を行っている。(鹿屋体育) 		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 博士後期課程の学生の研究指導能力の育成のため、R A制度の活用が望まれる。(鹿屋体育)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全学共通の授業科目である「総合教育科目」として「学生セミナー」や「総研大レクチャー」を開講し、専門を越えた広い視野を養うための総合的な教育を行っている。(総合研究) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 原則として第3時限はオフィスアワーとして時間割上講義を開かず、教員への質問、助教やTAを交えた演習の時間としている。(北陸先端) ○ 専攻分野に関する研究課題と隣接又は関連する分野の基礎的な概念、知識、能力など幅広い視野を養うため、主テーマ・副テーマ制を採用するとともに、複数の教員による指導体制を採っている。(北陸先端) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教養科目の中に、女性の視点から社会の発展に資する人材育成に有効な科目群を配置している。(大妻女子) ○ 単位の実質化を目指し、定期試験以外に授業時間を半期15週確保している。(大妻女子) ◎ 文学部英文科の「Extensive Reading」、家政学部の「キャリア・ディベロップメント・プログラムⅠ～Ⅳ」等、学生主体の新しい授業形態に取り組んでいる。(大妻女子) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ シラバスウェブシステムが構築されており、授業の進行状況や受講している学生への指示・連絡も随時書き加えることができるが、現状ではその機能が十分に活用されているとは言えず、積極的な利用促進が期待される。(大妻女子) 	
<p>平成20</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 保育士資格については厚生労働省から指定された保育士養成施設として授業科目が用意されているとともにキャンパス内に実習の場も用意されている。(宇都宮) ◎ 国際学部は、学生の国際経験を増進するカリキュラムを提供しており、留学する学生が多い。(宇都宮) ◎ オプティクス教育研究センターでは、企業との連携による光科学技術に関する教育研究として、学際先端システム学専攻オプティクスコースの授業科目を担当するとともに、このコースの学生の論文指導と併せて、これにつながることを志望する学部学生の卒業研究の指導を担当している。(宇都宮) ◎ 平成17年度、18年度に企業との連携によって、携帯電話用の組込みアプリケーションを題材とした組込みソフトウェア開発教育が実施され、その取組が茨城大学、群馬大学、埼玉大学との4大学大学院の連携による先進創生情報学教育研究プログラムへと発展している。(宇都宮) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学での教育研究の基礎である文章作成、口頭表現にかかわる日本語能力を高めるための「日本語表現法」を基礎教育科目として全学で実施している。(東京海洋) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学院教育に関連して進めているプログラムを基に、職業分野における期待にこたえるものとして整備されている専攻を横断した7つのコースが、海洋系総合大学としての今後の大学院教育の更なる充実につながることを期待される。(東京海洋) 	
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 建築設計学専攻では、修了制作審査員に外国人を含む学外者を加える制度を導入し、客観性の高い評価を行っている。(京都工芸繊維) 		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学生課程において、電子シラバスの学生の活用度がより一層上がることが望まれる(京都工芸繊維)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営系専門職大学院ではResearch-based Education のコンセプトの上に乗ってB J T (By the Job Training) などの実践的問題解決型的手法を導入している。(神戸) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ すべての授業を英語で行うとともに、海外留学を義務化していることは、当該大学の特色である。(国際教養) ◎ 単位の実質化への配慮が十分になされている。(国際教養) ◎ すべての授業科目に科目コードを付し、学修の進捗に適した履修を可能にしている。(国際教養) 		

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学科を越えて学ぶ連携実践教育科目により、保健・医療・福祉分野の幅広い視野を培う教育を実施している。(神奈川県立保健福祉) ○ 全教員がリアクションペーパーを活用することで、学生の授業における学習状況を把握し、それに応じた学習指導法の工夫を行っている。(神奈川県立保健福祉) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ シラバスの記述に教員による濃淡が見られる。(神奈川県立保健福祉) ○ 学士課程の成績評価の正確さを担保するための措置が十分とはいえない。(神奈川県立保健福祉) ○ TAに係る予算が措置されていない。(神奈川県立保健福祉)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 少人数教育が実施され、学生の満足度も高い。(大阪市立) ○ 社会人学生に対して、大学院課程において共通科目の夜間開講や、講義科目及び演習科目の大半を夜間に開講するなど十分な配慮がなされている。(大阪市立) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ チーム・ティーチングや双方向性を重視したバズ討論法の有効活用など、教育内容に応じた学習指導法の工夫がなされている。(宮崎県立看護) ◎ 学生の主体的な学習環境としてメディアを活用した自己学習システムを整備し、有効に活用されている。(宮崎県立看護) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学士課程学生の主体的な学習をサポートするため、アカデミックプランニング制度を導入し、一人一人の学生に学習・実習・学生生活・就職活動などをポートフォリオに記録させ、個別指導を行っている。(日本社会事業) ◎ 多数の講義から少人数の演習に至るまで、専門職大学院ではすべての授業において、社会福祉学部でも多くの授業でリアクションペーパーを活用して学生の自主的学習を促している。(日本社会事業) ○ 大学院博士前期課程において、対話・討論型授業が十分に行えるように、講義・演習は、基本的に2コマ連続とし、木・金・土曜日に集中させている。(日本社会事業) ◎ 教育課程や教育内容の水準が、当該職業分野の期待にこたえるようにするため、「産」、「官」、「学」からなる「福祉経営フォーラム」を開催するとともに、代表的な2つの職能団体と連携し、社会福祉実践及び社会福祉経営をテーマとする講義を開講している。また、福祉現場で活躍している多様な実践者をゲスト講師としている。(日本社会事業) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 小規模組織の特長を活かしたきめ細かい教育を実施し、指導教員と所属分野教員による多面的な研究指導が行われている。(光産業創成) 		
<p>平成21</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学院共通授業科目を設定して幅広い視野を有する人材の育成に配慮している。(北海道) ○ 教職大学院において、特別支援教育を含んだ共通科目、学級経営・学校経営、生徒指導・教育相談、授業開発の3コースを開講している。(北海道教育) ◎ 双方向遠隔授業システムを活用し、学士課程では全学連携科目を開講しており、また大学院課程では十勝・北見サテライトを含む複数校をつないだ授業を実施しているほか、専門職大学院課程では札幌・旭川・釧路の3キャンパスで同時に同一の授業を受講できるようにしている。(北海道教育) ○ 双方向遠隔授業を参加型授業の手段とし、講義・討論・省察を組み合わせた授業を行っている。(北海道教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各授業科目の授業を行う期間が、試験等の期間を除いて15週確保されている。(小樽商科) ○ シラバスが有効に活用されている。(小樽商科) ◎ 教育目的を実現するために教育課程を体系的に編成し、教育内容に応じたきめ細かい指導が行われている。(小樽商科) ◎ 大学院アントレプレナーシップ専攻では、教育目的に照らして、多様な授業形態による実践的な教育が行われている。(小樽商科) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 1年次の「基礎ゼミナール」及び3、4年次の「研究指導」において、きめ細かい指導が行われているが、学生生活の一層の充実に資するよう努めることが期待される。(小樽商科) 	
<ul style="list-style-type: none"> ◎ サステナビリティ学研究機構に参加し、地球環境変動に関する教育と研究を行っている。(茨城) ○ 大学院課程で研究指導計画書を学生と相談して作り指導している。(茨城) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各授業科目の授業を行う期間が補講・試験等の期間を除いて15週確保されている。(埼玉) ○ 経済科学研究科では、主に都心に通勤する社会人学生を対象に、東京ステーションカレッジを開講している。(埼玉) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ リベラル・アーツ教育を基礎とし、多様な専門領域と有機的に結合する柔軟な学部教育システムを実現することを旨として、「2層の学部教育体制」における前期・後期課程カリキュラムの有機的かつ効果的な接続を実現しており、当該大学の大きな特徴となっている。(東京) ○ 平成18年度の入学から、科類ごとに進学枠を指定した従来の制度に加え、科類によらずにどの学部にも進学できる全科類枠を設けることで、進路選択の自由度と流動性を更に高めている。(東京) ◎ 現代における生命科学教育の重要性を勘案し、学部前期課程から大学院までを見通した教育カリキュラムの中で、科類の特徴を活かした生命科学教育を実施するために、生命科学構造化センターを設立し、教材開発等を積極的に行っている。(東京) ○ 学部後期課程への進学に際して、極めて厳格な要件を課し、教育の質を保證している。(東京) 		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学士課程においてシラバスの記述が十分でない科目が散見される。(東京)
<ul style="list-style-type: none"> ○ コア科目(教養教育)では、文理融合リベラルアーツ科目群を設定するなどにより、社会の動向を反映した教育への配慮がなされている。(お茶の水女子) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ シラバス(学士課程・大学院課程)の記載内容に精粗がある。(お茶の水女子)
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 原子力・エネルギー安全工学専攻においては、遠隔連携講義を通じた大学間連携等によって原子力・エネルギー関係の教育内容を充実させているが、教育内容の充実と社会的理解へ向けたより一層の努力が望まれる。(福井) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 双方向遠隔授業システムにおいて、当該大学からの発信が少なく、十分に利用、活用されていない。(福井)

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ○ J A B E Eプログラムの認定に積極的に取り組み、3学部及び1研究科にわたり5教育プログラムが認定されている。(静岡) ○ 各授業科目の授業を行う期間が、試験等の期間を除いて15週確保されている。(静岡) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 経済学部では、問題演習(コア・セッション)や陵水学習教育支援室で学習支援を行う際に、T A ・ S Aが有効に活用されている。(滋賀) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 倫理教育の一環として、第2学年後期配置の「解剖学実習」においては、献体の受入から納骨慰霊法要での返骨及び納骨まで学生が携わり、生命の尊厳について考える機会としている。(滋賀医科) ◎ 医学科では第6学年から始まる学外臨床実習を前に、「アドバンスOSCE」を実施している。(滋賀医科) ◎ 博士課程のシラバスは授業内容を和文・英文併記とし、日本人学生のみならず外国人留学生にも配慮している。(滋賀医科) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学士課程並びに大学院修士課程のシラバスの充実が求められる。(滋賀医科)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ We b C Tを利用した自習システムのほか、図書館にコンピュータ室、グループ学習室やラーニング・コモンズなどを整備して、時間外の学習を支援している。(大阪) ◎ 高度教養教育を行うコミュニケーションデザイン科目やダブル・メジャーを目指した高度副プログラムを開設し、大学院教育の実質化に努めている。(大阪) ○ 法科大学院において、成績評価講評書の作成によって公正・厳格な成績評価に努めている。(大阪) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの授業科目において、We b - C T、W B L S S、Moodleの学習支援システムを活用したe-learningの取組を進めている。(奈良教育) ◎ 学生の理数科への関心を高めるために、先導的な体験省察型プロジェクト授業(「先導的理数教育I~IV」)を体系的に展開している。(奈良教育) ◎ 専門職学位課程では、「アセスメントガイド」及び「デジタルポートフォリオ」を用意し、その評価基準に基づいて、教員と学生が授業科目での達成度を確認しながら、適正な評価を図れるようにしている。(奈良教育) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学士課程及び大学院修士課程のシラバスの記載内容に精粗がみられる。(奈良教育)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の主体的な学習を促進する自主ゼミ等の手だてをとりつつ、基礎学力不足の学生に対する初年次教育の実施など、学習状況に配慮した指導援助体制が全学及び学部レベルで確立している。(島根) ○ 医学系研究科や生物資源研究科で、専攻制と同時に将来の志望別にコース制を導入しており、期待どおりにコース制が機能している。(島根) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各学部・学科等の教育目的と卒業生像・修了生像を明確にした、到達目標型教育プログラムを実施している。(広島) 		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学位論文審査基準の策定やその周知が、一部の研究科・専攻において不十分である。(山口)
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学部のすべての選修・専攻・コースにおいて、履修モデル及びコースツリーを作成し、履修指導に活用している。(福岡教育) ○ 大学院の各コースでは「コースの教育目標」を策定し、これに基づき「コースの教育課程編成方針」及びコースツリーを作成し、履修指導に活用している。(福岡教育) ○ 大学院のシラバスに授業の「目標・概要」に加えて「教育との関連性」を記載している。(福岡教育) ○ 大学院の各コースでは、「修士論文研究に関する指導指針」を定めウェブサイト公表し、教員及び学生の双方に周知している。(福岡教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語教育を重視し、TOE I C受験を推奨し、単位認定化あるいは受験の義務化を実施し、学生が受験しやすいように受験料の半額を補助している。(九州工業) ◎ 九州歯科大学大学院と連携し、歯学と工学を融合した学際的教育研究分野の教育研究を展開するための連携歯工学分野の授業科目を開講している。(九州工業) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ G P A制度を導入して、学修指導計画を学部ごとに策定し、G P Aに基づいて担任教員による履修指導、成績優秀者の表彰、成績不振者への注意喚起等が行われている。(佐賀) ◎ 医学系研究科では、高齢化社会における包括医療のニーズに対応するための医科学専攻の教育課程に総合ケア科学系コース(修士課程)及び総合支援医科学コース(博士課程)が設置されている。(佐賀) ◎ 2研究科(工学系研究科、農学研究科)が共同で教育と研究指導を行っている「地球環境科学特別コース」が設置されており、外国人学生が日本語の障壁なく教育を受け、研究に取り組めるよう英語による授業が開講されている。(佐賀) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生達が自主的にe-learningを進めることができるよう、コンテンツの開発・整備が進んでいる。(熊本) ◎ K U : T O、S O S E K Iなどによる学習環境が整備され、有効に活用されている。(熊本) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各研究領域の基盤となる知識と最先端の技術の習得に加えて、大学の教育目的に従って、倫理観、論理的な思考力など我が国の大学院教育に欠けている部分を取り上げた体系的な教育課程を編成している。(奈良先端) ○ 他分野からの学生の基礎学力を向上させることを目的とした導入教育を行っている。(奈良先端) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 多くの授業は、徹底した少人数教育で行われている。(群馬県立女子) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学士課程のシラバスに情報量の不統一や記載内容の精粗がみられる。(群馬県立女子)

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 建設工学科間主コース(社会環境工学科)では、JABEEによる認定を受けるなど、優れた教育に取り組んでいる。(前橋国立)</p>		
<p>○ 国際マネジメント研究科では、当該大学と横浜銀行グループとの共催事業「よこはま経営塾」に、学生を参加させる「大学院特別講義」を設け、経営塾支援とともに、教育研究成果を学生の研究にフィードバックさせることにより、修了後のキャリアデザインに現実性を与えている。(横浜国立)</p>	<p>◎ 「Practical English」の単位修得者が更に高度な英語力を修得することを目的として「Advanced Practical English」、「上級英語」等の開講や英語による授業科目を増加させてきているが、「実践的な国際教養大学になる」との大学の目標を達成するために、更に充実されることが期待される。(横浜国立)</p>	<p>◎ 医学研究科における学位審査に係る謝礼金の授受等の問題を契機として、「横浜国立大学学位審査等に係る対策委員会」により学位審査の客観性・透明性の確保及び学位の質の向上に向けた再発防止策が示され、対策案に沿って審査体制等が整備されているが、今後とも、更なる学位の質の向上に取り組んでいく必要がある。(横浜国立)</p>
<p>◎ 1年次から3年次まで少人数ゼミ形式の授業を配置し、4年次の卒業論文配属とあわせ、教員と学生との意思疎通が図られるようにしている。(富山県立)</p> <p>◎ 小規模大学・少人数教育の特長を活かし、単位不足学生、基礎学力不足学生への具体的指導がきめ細かく行われている。(富山県立)</p> <p>◎ 地域の産業界と密接に連携し、教育研究を実践している。平成16年度文部科学省現代GPに採択された取組「地域連結型「知の結集」工学教育プログラム」として、県内企業からの卒業論文・修士論文テーマの公募がある。(富山県立)</p>	<p>◎ WEB形式の教育支援システム「エスプリ」により予習・復習が行える環境が整えられているが、より一層の活用が期待される。(富山県立)</p>	
<p>○ 各学部・学科において、学問分野や社会的要請に沿って、地域社会、京都を主題にした、特色ある履修プログラムを設定している。(京都府立)</p>		
<p>○ 各授業科目の授業を行う期間は補講・試験等の期間を除いて15週確保されている。(大阪府立)</p> <p>◎ 高度専門職業人の育成を目指す看護学研究科の専門看護師(CNS)コースでは、がん看護、地域看護等の11分野が専門看護師教育課程認定委員会による認定を受け、多くの認定取得者を輩出している。(大阪府立)</p>		
<p>◎ 応用情報科学研究科では看護学研究科と連携して、病院や地域における看護・介護情報のデータベース化と、その効率的な運用を基盤として、情報化により看護・介護サービスの向上と効果的・効率的なサービスの実施を可能とするシステム開発を行う人材の育成を目指している。(奈良県立)</p> <p>○ 各授業科目の授業を行う期間が、補講・試験の期間を除いて15週確保されている。(兵庫県立)</p>		
<p>○ 全学教育科目(教養教育科目に相当)と各学科の専門教育科目は、教育の目的によって複数のカテゴリに分類し、カテゴリ別の最低修得単位数を設けるなど、学生の学習目的の明確化とバランスのとれた履修に配慮している。(岡山県立)</p>		
<p>◎ 共通科目には、高知県の歴史・文化・経済・自然・健康・福祉などを重視した土佐学、及び女子大学としての特色を踏まえた女性学を配置している。(高知女子)</p> <p>○ 大学院に入学する社会人学生の就学条件を保障するため、開講日・開講時間の調整、在学期間の短縮及び長期履修制度の導入など、総合的施策を講じている。(高知女子)</p>		
<p>○ 他学部授業科目の履修制度、インターンシップ、学部間移籍制度、編入学制度、派遣留学制度の導入のほか、補充教育やクラス別授業の実施、他大学との単位互換の実施、大学以外の教育施設等での学修の単位認定など、学生の多様なニーズ等に配慮した数多くの取組を実施している。(北九州市立)</p>		
<p>平成22</p> <p>◎ 農業高等学校からの入学者に対して、学生ボランティアグループと連携して学習支援チューターを配置している。(帯広畜産)</p>		
<p>◎ 大学院課程において、バランスのとれた教養と豊かな人間性を有する人材を育成することを目的として大学院共通科目を開設している。(筑波)</p> <p>◎ 大学院課程において、主専攻に加えて、それ以外の研究科・専攻との学位の同時取得を可能とするデュアルディグリープログラムを実施している。(筑波)</p>		
<p>◎ 修士課程学生が、「研究実施計画書」及び「修学計画書」を作成し、これを基に指導教員が「研究指導計画書」を作成することによって、修学期間全体にわたって、学生と指導教員の間で研究計画と指導計画が共有される仕組みを確立している。(東京学芸)</p> <p>◎ 高度の実践的教育能力を備えた学校教員を養成することを目的に、平成20年度に学部・大学院にわたる6年間の継続的な学修を可能とする「新教員養成コース」を導入している。(東京学芸)</p>		
<p>◎ 音楽学部では、特に声楽、オペラなどの分野で、正しい外国語のリズムの把握、舞台語の発声、発音の訓練が重要であること等から、学内共同教育研究施設である言語・音声トレーニングセンターで、幅広い言語種とレベルでネイティブの教員を中心とした実用外国語科目や原典指導が行われている。(東京芸術)</p> <p>○ 受託研究「国宝「源氏物語絵巻」現状模写」の例に見られるように、学術の発展動向や社会からの要請を反映した科学研究費補助金、受託研究、受託事業による研究等は、教員の研究面での取組であるだけでなく、多くが大学院生に対する創作研究指導として機能している。(東京芸術)</p> <p>◎ 文部科学省特別教育研究経費を得て芸術リサーチセンターを立ち上げ、芸術分野における博士学位の在り方、作品・演奏と一体化した研究論文の作成と位置付け等の研究を行うとともに、研究の一環として、学位論文の指導補助を行っている。(東京芸術)</p>		

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 修士課程の教育プログラムとして、修業年限が1年3か月のプログラムや1年1か月のプログラムを設けていることは特色ある取組である。(政策研究) ◎ 教育プログラムが政策領域や政策課題、学生の修学目的等を踏まえて設けられており、また、新たなプログラムも適宜、新設している。(政策研究) ◎ インドネシアの4大学(インドネシア大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学、プラウウィジャヤ大学)との連携で、修士課程におけるダブル・ディグリーのプログラム(Economics, Planning and Public Policy Program)を実施していることは特色ある取組である。(政策研究) ◎ 学位論文の最終審査に向けた計画的指導及び履修を可能とするため、博士課程の学生は、各プログラムの教育課程に基づいて提供される授業科目を修得した上で、博士論文提出資格試験(QE)を受験し、合格することが要求されている。この博士論文提出資格試験(QE)に合格した上で、必要な研究指導を受けつつ学位論文を執筆し、論文の最終審査に合格することが要求されている。(政策研究) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 修士支援室において、自主学習を促すとともに、基礎学力不足の学生に対するきめ細かい支援を行っている。(会津) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 医学部、看護学部における医療技能教育充実のためにスキルラボがよく整備され、最新の高度な各種シミュレーター機器を備えており、学部学生や研修医等の教育研修に用いられている。(福島県立医科) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 主に1年次に履修する都市教養プログラムの「現場体験型インターンシップ」は、様々な課題を抱える大都市の現場に直接触れ、問題意識の醸成や主体的に取り組む能力の育成を図るため、東京都や区市の事業所、民間企業等を受入先として実施されており、大都市大学の特徴を活かした取組となっている。(首都大学東京) ○ 経営学専攻では、双方向型e-learningシステム(Scubic)において、シラバス及び授業計画の掲示や学生とのディスカッションなどを行っており、インターネットを積極的に利用している。(首都大学東京) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 看護技術修得支援のための視聴覚教材を開発し、活用している。(新潟県立看護) ◎ フィードバックペーパー(毎回の授業で「質問・意見・感想」を学生が記述)を用い、授業改善に役立っている。(新潟県立看護) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教養教育科目の英語では、TOEICなどの資格試験の対策や工作上必要とされる英語運用能力養成のトレーニング、電子メール上のコミュニケーション能力養成、アメリカの学生とのオンライン上でのメッセージ交換等、実社会で必要とされる英語力、異文化間コミュニケーション能力などの養成に重点を置いている。(石川県立) ◎ クリッカーという授業応答システムを導入し、教員は授業前の学生の知識レベルや、授業途中及びその後の理解度を確認することができ、より教育効果の高い授業への取組が進められている。(石川県立) ◎ 学生の自主的な学習意欲を向上させる狙いで、「専門ポケットゼミ」の取組が実施されている。(石川県立) ◎ 大学院課程においては、共通科目として「科学技術史」、「科学技術倫理」を開講している。(石川県立) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 導入科目である2種類の「総合演習」科目を学年配置、クラス編成等について工夫して実施することによって、学生自らの学習への意欲を生み出している。(静岡文化芸術) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育方法は、研究者・作家・演奏家などの芸術家集団である教員による丁寧な個人指導を含んだ少人数教育に重点を置き、学生の自主研究をベースに学習進度に応じた様々な授業形態によって、個の尊重を重視した教育方法を採用している。(愛知県立芸術) ○ 大学院においては美術、音楽両研究科とも一専攻化し、研究室体制が確立され、個々の学生の研究計画・内容に対応して、多様な領域の研究室が複合的にかわるることにより、学生の個性を伸ばす教育が行われている。(愛知県立芸術) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学位審査に関連した不祥事に対応して、「教員の倫理に係わる行動指針について」の作成や引用ルールの周知を図るなどの対策を講じていることは評価できるが、再発防止へ今後一層の取組が期待される。(名古屋市立) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「環境と人間」をキーワードに、自然環境の保全と環境に調和した社会の実現を目指す教育に効果を上げている。(滋賀県立) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 看護学科では、基本的な看護実践能力の修得を目的として、スキルラボを利用した自己学習の推進と、OSCEによる評価を取り入れている。(京都府立医科) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医学科の「臨床実習実施要領」には遵守事項や評価基準等が適切に示されており、成績評価に有効活用されることが期待される。(京都府立医科) 	
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 授業科目をファンダメンタルセッション、コアセッション、アブライドセッション、ゼミナールセッションの4つに大区分した上で、文化・社会的な側面、産業・経済的な側面、政治・行政的な側面から地域づくりにアプローチできるカリキュラムを構築している。(奈良県立) ◎ 「やまとまほろば学」では、民産学官の多様な分野から講師を招き、専門分野の近い専任教員との連携の下に、奈良に関する歴史・文化・社会・自然等の領域について教授している。(奈良県立) ◎ 学生の主体的な学習を前提に、1年次の「基礎ゼミ」で、論文・レポート・レジュメの作成方法、文献・資料の探索方法、報告の方法等を効果的に習得させている。(奈良県立) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 九州工業大学と連携して設置している歯工学連携大学院において、歯学と工学を融合した学際的教育研究を推進している。(九州歯科) 		

基準5 I 教育内容及び方法(文部科学省採択事業以外)

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ シラバスでは、冒頭に、全学すべての授業を科目区分の順に見やすく配列した目次が置かれ、合計11の項目とその頁数が明記され、全体の見取り図としての役割を果たしている。また、目次とは別に、全冊の最後に授業科目名索引が付けられている。4項目の「学生の到達目標」は、「この科目を履修することで、学生が習得すべき内容を具体的に記入」したもので、個々の学生の学習ガイドとして有用である。(福岡県立)</p>		
<p>◎ 『看護技術習得確認シート』により、卒業までに必要な看護技術の全体像を把握させ、学生が自覚的、段階的に看護技術を習得できるようにしている。(大分県立看護)</p> <p>◎ 大学院生実務経験推奨制度を導入し、医療機関等で看護職として実務経験を積むことにより、より専門性の高い人材の養成を目指している。(大分県立看護)</p>		<p>○ 学士課程において、単位の実質化への組織的な配慮が十分とはいえない。(福岡女子)</p>
<p>◎ 「マネジメント・シミュレーション」は、履修者3人で構成する複数のチームが、経営分析・経営判断を行いながら業績を競い合っており、グループ学習とゲーム性の要素も加味した授業として特徴がある。(LEC東京リーガルマインド)</p> <p>○ 「欠席フォロー制度」は、仕事の都合により授業を欠席した場合の補習として、基本科目と発展科目に限り授業内容を収録したメディア(DVD)を利用できるようにしており、社会人学生に配慮したものである。(LEC東京リーガルマインド)</p>		
<p>◎ 学士課程において卒業要件単位の約6割を英語による授業としている点、及び大学院課程において英文での論文作成を必須としている点は、当該大学の教育の特色である。(大阪女学院)</p> <p>◎ 支給奨学金制度を設け、海外における体験型の学習(インターンシップやセメスター留学)を奨励している。(大阪女学院)</p> <p>○ 厳格な成績評価を行っている。(大阪女学院)</p>		
<p>○ 放送授業について、学生の学習状況を把握するとともに大学としての組織的な履修指導を行うために学期の半ばに通信指導(添削指導)を実施している。通信指導は放送授業科目の前半(1~8回)から出題する提出型と、放送授業科目の後半(9~15回)から出題する自習型に分けることにより、学生の自主学習を促進し、教育効果を高めている。(放送)</p> <p>◎ 学習センター及びサテライトスペースにおいて学生との直接対面による講義・ゼミナール・実習・実験を実施して、大きな教育効果を上げている。また学習センターには客員教員を配置しており、学生は履修・学習・論文等について相談し、アドバイスを受けることができる。(放送)</p>	<p>◎ 平成16年度に「アーカイブズ活用による双方向型遠隔教育」が文部科学省GPに採択され、放送大学アーカイブズの構築、放送教材と印刷教材の二次利用研究、双方向型教育の実践等が図られ、支援期間終了後においても、ICTを活用した遠隔教育が推進されているが、更に優れた手法の導入とICTを十分に活用できる教職員・学生の増加が期待される。(放送)</p>	
<p>平成23</p> <p>◎ 教養教育系科目に、当該大学の特性に鑑み、学生が社会にスムーズに適応するために開設された特徴的な科目群である障害関係教育科目がある。(筑波技術大学)</p> <p>◎ 大学院では、各コースに共通した基礎科目の中に、障害補償法関係の科目群があり、個々の障害に応じた情報の取得や発信方法を学ぶとともに、在学中の学修と研究並びに高度専門職業人及び研究者としての活動において必要となる障害補償法をも学べるように配慮している。(筑波技術)</p>		<p>○ 産業技術学部において、シラバスの内容と周知に更なる検討が必要であると考えられる。(筑波技術)</p>
<p>○ 民間企業からの寄附と指導の支援によって運営する寄附講座「実践的IT人材育成講座」を開講し、専門性の高い集中教育による高度なスキルを持った人材の育成に努めている。(はこだて未来)</p> <p>◎ 総合的なコミュニケーション能力や専門科目に合わせた英語能力の向上を重視して「コミュニケーション」と「ヴァーチャル・イングリッシュ・プログラム(VEP)」をそれぞれ4科目必修で開講し、大きな教育効果を上げている。(はこだて未来)</p> <p>◎ 大規模な学習空間「スタジオ」やどこでも情報通信ネットワークにアクセスできる環境等を整備し、「オープンスペース・オープンマインド」をポリシーとして、開放的な雰囲気の中で教育・研究や自習に取り組めるよう配慮している。(はこだて未来)</p>		
<p>◎ 大学院における両研究科共通科目は、幅広い医療実践的知識の獲得及び医療課題への理解に効果を上げている。(群馬県民健康科学)</p> <p>◎ 大学院のシラバスが充実しており、積極的に活用されている。(群馬県民健康科学)</p>		<p>○ 実験で使用するCTとMRIについては、期間中にモバイル装置を借用せざるを得ず、十分な実験環境が整備されているとはいえない。(群馬県民健康科学)</p>
<p>◎ 学生の自主的な学習を促す取組として、教育研究センターでは平成19年度より、毎年「学生自主企画研究」を公募、選考し、研究助成金を交付している。(愛知県立)</p>		
<p>○ 全学共通教育科目、キャリア教育の体系化を目指す取組、英語教育のeラーニング学習管理システムの研究等、3キャンパスの一体化の促進に寄与する取組に対して重点研究事業の高等教育推進区分の研究費を措置し、全学共通教育の質的向上と特色の明確化を図っている。(県立広島)</p> <p>◎ 県内3つのキャンパスは相互に遠隔地にあるため、高精細遠隔講義システムを導入し、多様な授業科目を他キャンパスでも同時に受講することが可能である。(県立広島)</p>		<p>○ 成績評価に対する異議申立制度が導入されていない。(県立広島)</p>
		<p>○ 大学院博士後期課程においては、音楽文化研究科を除いて、シラバスが作成されていない。(聖徳)</p>